



チセヌプリスキー場 蘭越町、派遣会社に譲渡

パウダースノー 「世界で戦える」

【蘭越】後志管内蘭越町は、2013年末から営業を休止している同町営チセヌプリスキー場を、製造・技術分野の人材派遣業、UTホールディングス(東京)に譲渡する。同社はリフトを改修し、早ければ16年度

▲ 民間へ譲渡されることが決まったチセヌプリスキー場



の再開を目指す。22日の定例町議会で宮谷内留雄町長が報告した。チセヌプリ(134㍎)は道内スキーの黎明期から山スキーが行われていたことで知られている。

同社の若山陽一社長は北

海道新聞の取材に対して「世界で戦える雪質を持っている」とパウダースノーを評価し、外国人らでにぎわう同管内倶知安、ニセコ両町のスキー場とを結ぶシヤトルバス運行を検討していることを明らかにした。年間約9万3千人の入り込みを目標に掲げる。

既に現地法人を設立し、リフト改修などを詰めた上で町に最終的な事業計画を報告するという。町は9

月にも譲渡に関する議案を町議会に提出する見込み。若山社長は雪崩の危険がある場合にコース外滑走を禁じる「ニセコルール」とIT技術を融合させ「世界最高水準の安全対策を築きたい」とする。

チセヌプリスキー場は1967年に開業。リフト1基、圧雪グレンドレは1カ所だけだが、原生林に囲まれながらの滑走を楽しめ、愛好家の人気を集めた。利用客がピーク時の半分程度の7、8万人台に低迷し、町はリフトの改修費などが確保できずに営業を休止した。昨年12月〜今年4月に町のホームページ上で譲渡価格5千万円で経営移譲先を公募していた。